

（前のページより）
者について検診を行って欲しい
こと、学校水道についてフッ素

の値を検査してほしいこと、な
どを要望しました。

相手への「ほめ」「励まし」「伸ばす」が学

「認め」「ほめ」「励まし」「伸ばす」が学
校教育に限らず、家庭教育でも王道である
といわれています。しかしそのことを心がけて
いないとなかなかできることではありませ
ん。

特に日本人は言葉を使ったコミュニケーション
ョンが苦手であるといわれます。アメリカや
ヨーロッパでは小さいときから自分を表現す
る訓練を家庭や学校でしています。これに対
して日本では「以心伝心」、「察し合う」こ
とでコミュニケーションをしてきました。そ
の良さもあるのですが、言葉に出して表現し
なければ伝わらないことが数多くあります。
今回は相手を「ほめる」、「その気にさせる」
言葉についてまとめてみました。恥ずかしが
らずに、ほめことばをもっと口に出してみま
しょう。「ほめられる」と、子どもは恐れず

にやってみようという勇氣ややる気がわいて
くるものです。場面に応じて次のような言葉
を意図的に使ってみようではありませんか。
よくトライしたね！
キミはすばらしい！
感動した！ ・カンベキ！
がんばったね！ ・りっぱだ！
わあ！すごい！ ・最高！
ほら、できた！
よくできたね！
信じられない！
いいぞ、いいぞ！
やればできるね！ ・尊敬する！
エライ！ ・さえてるね！
なんて、くんでしよう！
おみごと！ ・その調子！

定時退勤目と 時間厳守のススメ

今、県教育委員会では定時退勤日
を設けるよう各学校に指導をしてい
ます。週に一度は定時に帰れるよう
環境整備すること、月に一度は必ず
定時に帰宅させることという指導で
す。

時間厳守という言葉はよく聞きま
すが、私たちは開始時刻については
神経質になりますが、実は終わりの
時刻が大切なのです。
仕事や会議など時間が来ても終わ
らないときはよく延長することがあ
ります。これは時間より中味を大切
にしているわけで時間厳守ではあり
ません。
時間を守ることを優先するわけで
すから、仕事や中味が片づかなくて
も終わらなければなりません。
もちろん緊急な場合や生命にかか
わるような場合は別ですが、そうで
ない時は終わることを優先しなくて
はなりません。

人権教育の推進と伝之谷の力の育成

今なお様々な人権問題が発生する原因として自らの権利のみを主張し、他者の権利を顧
みない風潮があることや、人権について知識としては知っていても、それが態度として身につ
いておらず、行動が結びついていないことなどが考えられます。「知識」、「技術」、「態度」
を別々に育てていくのではなく、総合的にとらえながら人権教育を進めていくことが重要です。

- ① こんな知識（認識）を育てます。
・ 同和教育をはじめ様々な人権問題に対する理解と認識を深めること。
・ いじめや差別にあっている子どもへの思いに気づくこと。
・ 思いこみや決めつけなど予断や偏見、固定観念のおかしさに気づくこと。
・ 差別の不合理さを見抜くこと。 など
- ② こんな技術（スキル）を育てます。
・ うわさより自分で調べて整理して表現する技術。
・ 相手の気持ちを傷つけないで自分の気持ちを表現する技術（アサーション）。
・ 自分で決定し、冷静に判断して行動できる技術。 など
- ③ こんな態度（姿勢）を育てます。
・ 生命を尊重する態度。
・ 自分らしさを知り、自分が好きといえる自尊心（セルフエスティーム）
・ お互いの違いを認め合う態度。
・ 人の心の痛みや思いがわかる態度。
・ 他人の人を信頼し協力できる態度。 など

相手の大切さの理解と自己主張の力の育成

今回は、この中にも述べていますアサーシ
ョンについてお話しします。これは、いじめ
差別の問題を解決する手段の一つとして、今
までは青少年や大人に対して行われてきた効
果的な方法です。

本校の今年度の研究テーマは、「話すこと、
聞くこと」の指導を通して「伝え合う力」を
高めることをねらいとしています。自分の考
えや気持ちを相手にしっかりと伝えることも
に、相手からの考えや気持ちもしっかり受け
取ることができるそんな力をつけさせたいと
思います。これはアサーションの力そのもの
でもあります。

アサーションとは、相手を尊重しながらも
きちんと自己主張し問題解決をしようとする
もので、相手の気持ちを傷つけないで自分の
気持ちを表現する技術（非攻撃的自己主張）
のことです。

アサーションとは、いい換えれば、「自他
の権利を侵さない限り、自己表現をしてもよ
い」という意味です。アサーションの権利は、
よりよい人間関係の基礎で、人との信頼、思
いやり、親密さなどを育んでいくためには大
切なことです。本校でも小学校の子ども
向けのアサーショントレーニングを積極的に
行う予定で準備しています。